B 97　胴部原型のゆとり量の測定

名古屋市立女短大　○大川由子　長谷川陽子　佐野恂子

目的　原型は「人体のレプリカ＋ゆるみ量である」と言われている。原型を立体化し人体に着用した際、各所にゆとり量が得られる。

ゆとり量の測定には、触針法、モアレ法など種々の方法が提案されているが、ゆとり量を非接触で測定する簡便な方法を考案し、これを用いて各種原型のゆとり量を測定し、比較、検討した。

方法　図1のように直角二等辺三角形上に、試料、スライドプロジェクター、読取望遠鏡を設置する。図2より人台上に投影された△ABCの点の位置をPとした時のPQの長さを読取望遠鏡で求める。△APQは△ABCであるのでPA＝$2^{1/2}$＊PQとなる。試料服を着用させた場合も同様に光の点（R）の測定よりRAの長さが求められるので、ゆとり量RPはRA－PAから算出できる。

結果　表は、上記方法でゆとり量を測定したものの一例で、回転軸を中心に5度間隔で1回転（360度）させた時の各点（計72点）のゆとり量を、ウエストラインを基準に肩部に向かって5cm間隔で7本の測定線上において測定したものの平均値を示す。

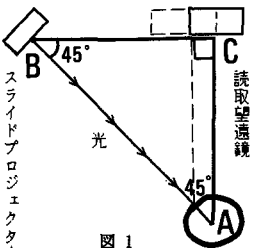

図1

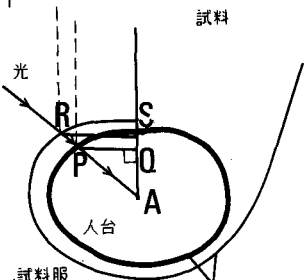

図2

各測定線上の平均ゆとり量（文化式）

	1本目(W.L.)	2本目	3本目	4本目	5本目	6本目	7本目
平均	47.32	45.00	32.39	22.42	17.17	4.67	5.58
標準偏差	12.76	11.79	10.11	10.55	8.79	4.49	4.57

（単位mm）